

教科名	科目名	単位数	授業形態	系統	履修年次
国語	現代の国語	2	一斉	共通	1

教科書（発行所）	精選現代の国語（東京書籍）
教科書以外の教材	常用漢字ダブルクリア五訂版（尚文出版）

目 標	1 言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。 2 身近にある問題や社会の課題について自ら問いをたてて考える力を育成する。			
	学期	学習事項	学習内容	考査等
学習計画	1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 読む「評論の読み片」（僕たちの「センス・オブ・ワンダー」） 話す・聞く「分かりやすい説明をする」 書く「手順を整理して正確に伝える」 読む「文章の要点をつかむ」（水の東西） 話す・聞く「発想を広げて課題を見つける」 	<ul style="list-style-type: none"> 表現に即して評論の読み、本文の内容を的確に理解する。 目的や相手に合った分かりやすい説明をする。 情報を整理し、表現を検討して手順書を書く。 「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝える。 	実力考査 中間考査 期末考査
	2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 書く「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」 読む「時間と自由の関係について読み取る」（時間と自由の関係について） 話す・聞く「本を紹介する」 書く「調べた情報を説明資料にまとめる」 読む「比喩や具体例に注意して読む」（自立と市場） 書く「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」 	<ul style="list-style-type: none"> 読んだ文章から問いを作り、構成を工夫して意見をまとめる。 時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、必要に応じて要約する。 相手の興味を引くように、構成や展開を工夫して話す。 情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめる。 比喩や具体例に注意して内容を読み取り、考えを深める。 複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。 	実力考査 中間考査 期末考査
	3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 話す・聞く「情報を整理しながら話し合う」 読む「文章を比較して読む」（人工知能はなぜ椅子に座れないのか） 書く「論証してレポートを書く」 話す・聞く「探究したことを発信する」 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの進め方を工夫し、考えを深める。 人工知能に関して人間と比較しながら論じた評論を読み、両者の違いについて考える。 論点を整理して論証し、レポートの形で書く。 発表の仕方や、話の聞き方を工夫する。 	実力考査 学年末考査
授業の受け方・学習に向けてのアドバイス等	1 提出物・宿題の期限を必ず守ろう。 2 授業中は必ず辞書を持参し、こまめに辞書を引く習慣をつけ、語彙力をつけよう。 3 ノートやプリントは板書をそのまま写すだけで終わらせず、説明を集中して聞き、メモを取ったり、アンダーラインを引いたりする習慣をつける。ノートが自分の参考書になるので、後から復習で活用できるように丁寧にまとめよう。 4 1年間の学習を通して言語感覚を磨き、思考力や自ら進んで表現する姿勢を養おう。			

評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
評価の方法	定期考査・課題確認テスト（小テスト）・課題レポート・日々題・週課題、授業に臨む姿勢や意欲及び自己評価を総合的に評価します。 いわゆるペーパーテストのみの点数がすべてではありません。身につけるべき能力をまんべんなく評価します。よって、テスト以外の普段の取り組みも評価の対象になります。知識・技能にもとづいた思考力・判断力・表現力も問うので、普段から、本質的な力を磨くようにしてください。		